

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の流行について（警報）【速報値】

令和6年2月7日（水）15時00分

北海道名寄保健所
(北海道上川総合振興局保健環境部名寄地域保健室)
電話：01654-3-3121

道では感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律に基づき感染症発生動向調査を実施しておりますが、令和6年第5週（令和6年1月29日～令和6年2月4日）において、名寄保健所管内の定点当たりのA群溶血性レンサ球菌咽頭炎患者報告数が、警報基準である8人以上となりましたので、まん延を防止するため警報を発令します。

今後、名寄保健所管内において流行が更に拡大する可能性がありますので、感染予防に努めるようお願いいたします。

記

1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎受診数 第5週（令和6年1月29日～2月4日【速報値】）

区分	名寄保健所	全道※	全国※
定点当たり患者数	8.33人	7.92人	4.35人
定点受診患者総数	25人	1,101人	13,617人

※全道、全国数値は第4週（令和6年1月22日～令和6年1月28日）の公表値

2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎とは

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎はいずれの年齢でも起こり得るが、学童期の小児に最も多く、3歳以下や成人では典型的な臨床像を呈する症例は少ない。

通常、患者との接触を介して伝播するため、ヒトとヒトとの接触の機会が増加するときに起こりやすく、家庭・学校などの集団での感染も多い。

突然の発熱と全身倦怠感、咽頭痛によって発症し、しばしば嘔吐を伴う。

咽頭壁は浮腫状で扁桃は浸出を伴い、軟口蓋の小点状出血あるいは舌の変化として、発症早期には白苔^{はくたい}に覆われた舌がみられ、その後白苔が剥離して莓舌となる。

なお、全道のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の流行状況は北海道感染症情報センターのホームページで御覧になれます。（URL：<http://www.iph.pref.hokkaido.jp/kansen/602/map.html>）

3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の感染予防

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は飛沫感染、接触感染により伝播するため、手洗いやうがいがあります。

また、集団の中ではマスクを着用することも感染予防の有効な手段となります。

4 参考

(1) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の警報とは

厚生労働省の感染症発生動向調査事業の一環として、名寄保健所管内の医療機関（施設数3か所）を受診したA群溶血性レンサ球菌咽頭炎患者数を一週間ごとに把握・集計し、あらかじめ定めた警報の基準値に達した場合に発令します。

警報は、大きな流行の発生や継続が疑われることを示しています。

【警報の基準】

警報：1 定点医療機関当たりの受診患者数が一週間で8人以上の場合

※警報発生後は、1 定点医療機関当たりの受診患者数が4人以上の場合は警報を継続

(2) 最近5週における定点医療機関からの報告状況（表示は「報告数（患者／定点）」単位：人）

	第52週 (12/25～12/31)	第1週 (1/1～1/7)	第2週 (1/8～1/14)	第3週 (1/15～1/21)	第4週 (1/22～1/28)
名寄保健所	14(4.67)	11(3.67)	4(1.33)	16(5.33)	15(5.00)
全道	783(5.67)	447(3.34)	584(4.20)	872(6.27)	1,101(7.92)
全国	11,756(3.82)	5,403(1.74)	8,866(2.83)	13,382(4.28)	13,617(4.35)